

第 1 回セントラルパーク基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：平成 27 年 12 月 4 日（金）14 時 00 分～16 時 30 分

会 場：福岡県吉塚合同庁舎 特 3 会議室

議事概要：

発言者	発言要旨
事務局	<開会、挨拶、委員紹介等>
委員	<委員長、副委員長の選任>（資料 1－1，1－2）
委員長	委員長に杉本委員を推薦し承認される。 副委員長に蓑茂委員を推薦し承認される。
事務局	<報告事項 1，2 の説明> 報告事項 1 セントラルパーク構想の概要について（資料 2） 報告事項 2 構想策定後から現在までの取組み状況について（資料 3）
委員長	何か意見はないですか。（なしの声あり）
事務局	<協議事項 1～3 の説明> 協議事項 1 セントラルパーク基本計画の進め方について（資料 4） 協議事項 2 基本計画の前提と現況の整理について（資料 5） 協議事項 3 課題の整理について（資料 6）
委員	1 つ目に、舞鶴中学校敷地跡に民間が営業する駐車場ができたということだが、現時点でどれくらい観光バスの需要があるのか。 2 つ目に、今後いろいろなイベントを開催する際に、どのくらい音が出せるのかということも前提として押さえておく必要がある。
事務局	観光バスの需要については、福岡市にクルーズ船で来られる外国人観光客は増えてたが、必ずしも駐車場利用が増えてる状況でもなく、まだ、動向はつかめてない。 音については、大きな音を出す音楽イベントを開催してないので傾向がつかめないが、飲食イベントでステージイベントを行った際も、問題にはなっていない。
委員	両公園の特徴的なところは、国、県、市と行政がまたがり、文化的にも多様であること。両公園の一体的な活用を図るうえで、特に大事なものは、どのような組織で実行していくかということだが、何か統一的な組織体制のイメージはあるのか。無いのであれば早急に検討していただきたい。
事務局	県市と指定管理者で、大濠・舞鶴公園連絡会議を立ち上げ、お互いコミュニケーションをとって連絡調整をやり始めたところである。現時点では、将来の管理体制の具体的なイメージはまだ無い。

委員	大濠公園周辺にマンションが集中しており、事務所にイベントの音に関する苦情もきている。管理面を最重点で考えていただきたい。 また、大濠公園は朝早くから夜遅くまで利用者が多く、園路をはじめ、駐車場や駐輪場も手いっぱいの状態である。両公園の一体的な活用により、大濠公園に人が流れたときどうするかを懸念している。
事務局	周辺住民を含めた意見や要望について、それぞれの公園としてではなく、両公園全体として受け止めていけるようにしたい。 また、音の問題について、苦情があれば音を絞ることもやっている。今後、イベントを実施する中で、適正な状態を探っていくことも必要だと考えている。
委員	現況整理として、やっておくべきことが2点ある。 1つ目に、利用状況の統計は年度で整理するだけでなく、季節や月、日ごとに細かく取り、利用の多い時期のピークカットを行い、ある特定の時期に人が集中しないよう、年間で利用者が平準化している状態をつくることが大事である。 2つ目に、公園マネジメント時代の新しい公園づくりとしてどのような答えを出すかが大事。民活を含め、公園の賢い経営が必要。整備費や管理費がどのように投入されてきたのかをデータ化し、行政は今後あまりお金を出せないといったことを確認しながら議論していきたい。
委員	セントラルパークから広がるまちづくりという視点も大事で、天神や六本松との関係も視野に入れるべき。駐車場は、天神を目的に来る人も利用できるようなものを考えてもいい。
委員	外から来た人が福岡でどこを観光するかというところが弱い。市民の憩いの場としての整備も重要だが、福岡の観光のシンボルとなるように、文化や歴史といった点を強調した施設づくりが必要。
委員長	公園の充実は当然だが、周辺も大事というのは重要な視点である。
委員	人が行き来できるような空間の一体化だけではなく、史跡やアメニティ施設といったクオリティの一体化も必要である。 また、行政だけでも、民間やNPOだけでもできないことをできるようにするため、官民連携して進めていくことが必要。現在、NPO福岡城市民の会と市で共働事業をやっており、一度ご説明させていただくチャンスがあるといい。
委員	計画策定段階や管理の中に住民との対話の場を設けることで、住民の理解の深まりや、情報の共有を図ることができる。 財政的にも行政が抱えきれない状況の中で、エリアマネジメントのような組織を立ち上げ、人とお金を持ち寄って、計画づくりから管理まで一体となって進めてい

	くようなやり方もあると思う。
委員	マネジメントや一体感の創出には、象徴となるような中核施設みたいなものが必要になってくると思う。 また、19世紀に、パリの公園を核とした都市整備を行ったオスマンのパリ大改造計画のように、行政が町全体を変えることは現代の日本では無理であり、まちを変えようという民意を創生するために、具体的な目標とか象徴的なイメージが必要になってくる。
事務局	今後、みなさんのイメージが湧くような作り込みをしていきたい。
委員	両公園の比較をしているが、これは非常に有効である。比較結果をもとに、施設の更新など、具体的に見据えていることを基本計画に記載しておくべき。
委員	両公園のクオリティとクオンティティの比較で、何が問題かが浮かび上がる。
委員	大濠公園の飲食施設や遊戯施設は土日は満員だが、大濠公園は憩いの場そのものである。福岡城跡や鴻臚館跡などを含めて一体的に考えていただきたい。
委員	裁判所跡地の防災公園街区整備事業はどのような内容になるのか。
事務局	UR都市機構が市に代わって防災公園整備を行う事業で、市としては多額の事業費の平準化が図れるというメリットがある。事業のスキームは決まっているが、具体的にどういう防災機能とするかは決まっていないため、公園全体の視点で、委員会の中でもご意見をいただきたい。
事務局	<協議事項4の説明> 協議事項4 計画方針と基本計画（たたき台）について（資料7）
委員	ドイツでは「教育の路」というのがあり、予め決められたルート of の要所に解説板があり、どれくらいかかるのか時間設定がなされている。今回も、様々なコース設定は大変良いが、どのぐらいで回れるかの時間設定が重要である。
委員	20年、30年先を見据えた駐車場の確保が重要であり、大濠公園の池の下に作れないか検討して頂きたい。観光バスの交通渋滞の解決にもつながると思う。 また、新県立美術館の話が浮上しているようだが、この公園内に配置される可能性はあるのか。市立美術館との相乗効果で、芸術文化機能の向上が図れると思う。
事務局	地下駐車場については、大濠公園の水面が国の登録記念物であることから、現実的には難しい。 新県立美術館については、県教育委員会で基本構想検討委員会が設置されており、

	本年度中にコンセプトの方向性をまとめるものの、具体的な立地場所は議論しないと聞いている。本委員会では切り離して議論いただきたい。
委員	公園内での連携だけでなく、まち全体としてどう考えていくのかという部分も計画の中に盛り込まなければならない。エリア外に対してどのようにセントラルパークの影響を及ぼしていくのかについては、どの部分に入るのか。 芸術文化エリアについて、日本庭園、市立美術館、能楽堂の3施設をつないただけではエリアとはいえない。施設の間をつなぐ新たな施設の整備や、大道芸など小規模なイベントができる場を設け、施設間をつなぐ工夫も必要である。
事務局	エリア外への影響については、ご指摘を踏まえて今後検討していきたい。 芸術文化エリアについては、施設外への広がりも重要と考えており、屋外ミュージアムや大道芸、小規模な音楽での利用なども計画に盛り込みたいと考えている。
委員	対象エリアは記載されているものの、ぼんやりとしているので、周辺との関係の整理は必要である。周辺との関係は、連続的な街並みや公園と調和した景観誘導などのまちづくりの観点と、天神や六本松など周辺地区との回遊性といった人の動きの観点がある。
委員	今はマネジメントの時代になっており、ゾーニングや動線計画という従来のやり方ではなく、どのような管理運営のやり方をするのかを先に決め、それに合わせて空間の使い方を決めていくというやり方に変えないといけない。 また、公園は入口が狭くなりがちなので、ボトルネックが起きないような公園に変えていく必要がある。 これからは、公園内のバリアフリーやユニバーサルデザインだけでなく、公園までのアクセスを含めたインクルーシブデザインの考え方が必要である。全てを含んだものにしていく方針を掲げるなら、「まちの公園から公園のまちへ」という、構想の方向性にも合致する。
委員	まちの機能として公園を設定するのならば、公園の性格や役割をはっきりさせたほうがいい。この公園において、地域の芸術文化や歴史文化が非常に重要であると考えるが、既存の施設だけでは、海外からの観光客も含め、今後増加する利用者の興味を吸収することが難しい。県立美術館が立地するのであれば真剣に検討する価値があると思うが、その可能性はあるのか。 また、観光客をどのように回遊させるかという意味で、福岡城本丸や鴻臚館について、何か施設のイメージはあるのか。
委員長	芸術文化ゾーンの捉え方が気になっており、歴史も芸術文化と捉えると、両公園の一体化ができると思う。
委員	例えばプロジェクションマッピングのような新しいメディアシステムをどう取り

込むかはあると思う。新しい芸術と歴史資源とが結びついて、新たな資産を生むという考え方もできる。

委員長 芸術文化と歴史というゾーンを分けるからややこしくなるのかも。全体が文化度が高いゾーンという前提を持てばいい。

委員 ゾーニングやエリア分けは大事だが、必ず緩衝帯をどうするかといった話になる。鴻臚館と福岡城は、ゾーニングがラップした考え方がいいと思う。

鴻臚館の展示館は、福岡城の石垣に隣接しており、正倉院風の建物で覆うのではなく、どちらの時代にも属さないような現代的なガラス張りの建物にし、カフェを楽しみながら両方の時代を感じられる施設にすべきである。

委員 古代と近代の間に現代的な表現で歴史のバランスを取るというやり方はすごくいい。例えば、私見だが、鴻臚館跡に国立迎賓館を建てることは歴史的にも強い説得力があり、地域自体のクオリティが上がり、周辺開発が促進されると思う。古代からの感性と現代的な感性を融合した新しい発想のイノベティブな総合体になるべきであり、エリアを区切った細切れの考え方はやめたほうがいい。

委員 機能主義的な計画の作り方は今の時代にそぐわないが、作業上漏れが無いかのチェックは必要である。

これまでつくってきたものをどう活かしていくかというストックマネジメントというキーワードも重要。

また、こういう公園は、周辺の不動産価値が向上するなど、外部経済効果を有しているが、メリットをとれていない。公園の強みをうまく利用しながら、公園をイニシアチブにしてまちづくりをしていくべきである。

委員 明治通りには、美しい建物を並べて、1階部分はカフェにするなど、周辺のまちも巻き込んでいくことがこの公園をよくしていく。

また、公園名称の統一や、基金を使って象徴的なものを早く造ることも必要。

委員長 文化財であることの制約や周辺環境のことも考えながら、本日の委員会で出てきた意見について、次回の委員会で示してほしい。

時間が来たのであとは事務局にお返しする。

事務局 今日の意見を踏まえ、計画案を作り直して次回委員会で再度提示したい。
以上で第1回委員会を閉会する。

—— 以上 ——